

南海レスキュー30

～大規模地震発生時の災害対処計画の実効性を確認～

師団（師団長 田中陸将）は、平成30年10月13日から10月14日の間、中部方面隊（総監 岸川陸将）が実施する南海レスキュー30に参加するとともに、実動訓練を行い、師団が計画する南海トラフ地震対処計画の実効性を検証した。

13日午前8時、南海トラフ地震が発生したという想定で訓練が開始されると、師団司令部及び隷下部隊は速やかに登庁、指揮所を開設し即応態勢を確立。自治体等へ連絡員（LO）を派遣するとともに、和歌山県庁に師団前方指揮所を開設した。状況間においては、初動対処部隊による情報の収集、被害甚大と予想される地域への部隊の展開、空路での無線中継所の輸送、開設・運営、派遣部隊が長期間活動を継続するための師団段列の開設・運営訓練等をそれぞれ実施した。

また、和歌山県が計画した孤立した建物からの救出・救助、SCU（広域搬送拠点臨時医療施設）における衛生救護訓練等、各関係機関と連携した訓練を行い、対処計画の実効性を確認するとともに、更なる深化を図った。

訓練の状況



緊急登庁支援



災害派遣準備(人員点検)



派遣準備(器材積載)



師団司令部状況報告



偵察隊前進



前方指揮所開設



無線中継器材空輸



前方指揮所(和歌山県庁)



倒壊家屋からの救出・救助訓練





SCU(広域搬送拠点臨時医療施設)での協同訓練



田中師団長取材受け